

先端補綴治療学特論

Advanced Course of Prosthodontics Treatment

キーワード

- ① 審美歯科治療学
- ② CAD/CAM補綴
- ③ 接着科学
- ④ 歯科金属アレルギー
- ⑤ スポーツ歯学

授業概要

本講義では、ベーシックな補綴治療に加えて、より専門性の高い最新の補綴治療法について教授する。特に、オールセラミック修復を中心とした審美歯科治療、CAD/CAMシステムを用いた補綴治療、最新の接着技術、歯科金属アレルギー患者への対応、マウスピースを用いたスポーツ歯学治療、高齢者に対する補綴治療、欠損に対するインプラントや義歯治療さらには再生歯科医療の現状について講義し、先端補綴治療の理解を深めるとともに専門医としての素養を養う。

授業科目の学修目標

先端補綴治療学特論は、これまで学んできた補綴治療に加えて、より特殊性の高い補綴治療法を学ぶもので、本科目では先進補綴治療とEvidence based Dentistry (EBD)を実践する上での必要な知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 審美歯科治療とオールセラミックス修復法について講義する。 6コマ 木本克彦
- ② CAD/CAM補綴について講義する。 3コマ 星憲幸
- ③ 接着科学について講義する。 3コマ 木本克彦
- ④ インプラント治療学について講義する。 3コマ 木本克彦
- ⑤ 再生歯科医療について講義する。 3コマ 齋田牧子
- ⑥ 総義歯学について講義する。 3コマ 清水統太
- ⑦ 歯科金属アレルギーについて講義する。 3コマ 清水統太
- ⑧ スポーツ歯学について講義する。 3コマ 木本克彦
- ⑨ 高齢者に対する補綴治療について講義する。 3コマ 一色ゆかり

教科書および参考書

先端補綴治療学特論 配布プリント

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

先端補綴治療学特論では授業項目とそれに関連する最新の学術論文を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 審美歯科治療とオールセラミックス修復法が説明できる。
- ② CAD/CAMシステムを応用した補綴治療が説明できる。
- ③ 各種補綴材料に対する接着技法が説明できる。
- ④ 欠損補綴におけるインプラント治療の位置づけが説明できる。
- ⑤ 再生歯科医療について説明できる。
- ⑥ 無歯顎患者に対する補綴治療が説明できる。
- ⑦ 歯科金属アレルギー患者に対する治療法が説明できる。
- ⑧ マウスピースを用いたスポーツ歯学が説明できる。
- ⑨ 高齢者に対する補綴治療が説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
10%	0%	45%	0%	0%	45%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回10%
- ・レポートは、授業計画の9項目について課題を提出する。5%×9回=45%
- ・口頭試問は、授業計画の9項目についてプロダクト達成度を判定する。5%×9回=45%

理想的な達成レベルの目安

先端補綴治療学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。